

2024 年度
マレーシア・ペナン州 区民ホームステイ派遣
報告書



牧野 美樹

田中 詳子

菊地 愛佳

緒方 一華

松浦 理乃

1. マレーシア・ペナン州について

東南アジアの中心に位置するマレーシアは、マレー半島(半島マレーシア)とボルネオ島の一部(東マレーシア)から成り立っています。国土の約 60%が熱帯雨林でおおわれています。マレー系・中華系・インド系そして先住民で構成される多民族国家です。

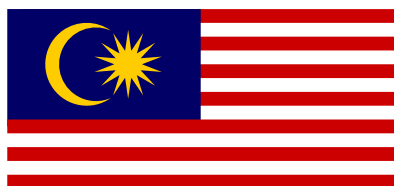
ペナン州は、マレーシアの北西に位置する、面積約1048平方 km、人口約 177 万人が住む州です。州都は世界遺産にもなっているジョージタウンです。ペナン州は、「東洋の真珠」、「グルメ天国」と呼ばれ多くの観光客で賑わうペナン島と、商工業・居住区・大自然が調和する半島部からなっています。

葛飾区とマレーシア・ペナン州の交流は、1987 年に始まりました。経済的・文化的にも関係の深い東南アジアとの交流を目的に始まり、現在は隔年で青年ホームステイの派遣と受入を行っています。派遣の年には、5 名の葛飾区民がペナン州のホストファミリー宅で約 1 週間のホームステイを体験、受入の年にはペナンの青年 10 名が葛飾区内のホストファミリー宅に 1 週間ほど滞在をします。

お互いの宗教観や社会・文化・生活習慣には大きな違いもありますが、心遣いや考え方などには共感できる点が大変多くあります。ホームステイ交流を通して、お互いに学びあい、理解しあい、そしてそれを帰国後に地域のために活かす…そんな素晴らしい交流を続けています。

葛飾区文化施設指定管理者

【マレーシア基本情報】



赤・白・青の 3 色は、旧宗主国であったイギリス国旗の配色に由来し、黄の三日月と星はイスラム教のシンボルでスルタンの権威を示しています。また、14 条の星の光と 14 本の赤と白のストライプは連邦国家として独立したときの州の数を示していましたが、その後、シンガポールが分離独立し、連邦国家と 13 州の団結を象徴するものとなりました。

項目	マレーシア全国	ペナン州
首都／州都	クアラルンプール	ジョージタウン
面 積	約 33 万km ² (日本の 0.9 倍)	約 1,048 km ² (東京の 0.6 倍)
人口	約 3,350 万人	約 177 万人
宗教	イスラム教(国教)64%、仏教 19%、 キリスト教 9%、ヒンドゥー教 6% 他	イスラム教 46%、仏教 38%、 キリスト教 4.5%、ヒンドゥー教 8.5% 他
民族構成	ブミプトラ(マレー系・先住民)約 70%、 中華系約 23%、インド系約 7%	ブミプトラ 41%、中華系 41%、 インド系 9%、その他 8%
主要言語	マレー語(公用語)、中国語、タミル語、英語	
気 候	熱帯性気候。高温多湿で、年中気温が高く雨季と乾季がある	
有名な観光地	ペトロナスツインタワー、ランカウイ島、マラッカなど	

(2023 年マレーシア統計局 他)

2. 募集要項

事業名	マレーシア・ペナン州 青年ホームステイ派遣
派遣期間	2024 年8月1日(木)～8月7日(水) 7日間
募集人数	5名
対象	昭和49(1974)年4月2日から平成18(2006)年4月1日生まれの方
応募資格	① 申し込み時から派遣時を通して葛飾区に住所を有し、かつ居住している方。 ② 事前・事後研修、報告会の全日程に参加できる方。 ③ 健康で、海外生活やホームステイに対応ができ、区の研修、交流事業に参加できる方。 ④ 国際交流に関心があり、派遣の目的を理解し、派遣後も区内で実施する国際交流事業に協力できる方。 ⑤ 学校長、勤務先の理解が得られる方。 ⑥ 英語で基本的なコミュニケーションがとれ、交流に意欲がある方。 ⑦ 過去に本事業で派遣されたことがない方。
言語	英語
個人負担金	80,000円

3. 選考スケジュール

4月5日(金) 9:00	応募受付開始
5月7日(火) 19:00	応募締切 <必着>
5月中旬	書類選考結果を5月14日(火)までに全員に郵送にて通知。
5月18日(土)	面接選考 【会場】かつしかシンフォニーヒルズ
5月末	団員の内定。審査結果は全員に郵送にて通知。 ※派遣団員内定者のうち、事前研修の全日程を修了した方を団員として決定。

4. 研修概要

	日にち	研 修 内 容
第1回	6 月 16 日(日)	葛飾区の国際交流、渡航手続き、英語セッション①、体験談
第2回	7 月 7 日(日)	マレーシアの基本情報、ホームステイの心構え、英語セッション②
第3回	7 月 21 日(日)	ホームステイ情報、マレー語講座、現地での文化交流について
第4回	8 月 27 日(火)	区長に派遣報告(葛飾区役所)等 [午前のみ]
報告会	11 月 10 日(日)	かつしか国際交流まつりにて発表

5. 派遣日程

日にち	午前	午後
8月1日(木)	成田発(経由:クアラルンプール)	ペナン到着後、ホストファミリー宅へ
8月2日(金)	ペナン島視察(ジョージタウン・セントポール寺院・ハーモニー通り・水上集落、等) ペナン州政府行政委員会(EXCO) 表敬訪問	
8月3日(土)	ホームステイ	
8月4日(日)	ホームステイ	
8月5日(月)	ホームステイ	フェアウェルパーティー
8月6日(火)	プルマタン・パシール中等教育学校訪問(日本文化紹介・日本語教室) 大学生とのディスカッション	
8月7日(水)	ペナン発(経由:クアラルンプール)	成田着

6. ホストファミリー

	団員	ホストファミリー
1	牧野 美樹	Mr. Razali (マレー系)
2	田中 詳子	Mr. Iman (マレー系)
3	菊地 愛佳	Mr. Tang (中華系)
4	緒方 一華	Ms. Alesha (マレー系)
5	松浦 理乃	Mr. Razali (マレー系) *1とは別家庭

【現地受入団体】



■MAYC ペナン

Malaysian Association of Youth Clubs

マレーシア青年クラブ連合ペナン支部

葛飾区とMAYC ペナンは、1987年より交換ホームステイ交流を行っています。

MAYC ペナンのメンバーや関係者がホストファミリーとして協力しています。

7. 公式行事

【8月1日：団員歓迎会】

夜遅くにペナンに到着しましたが、MAYC ペナンの皆様が温かく空港で出迎えてくれました。空港の近くのレストランで、ホストファミリーとの対面式、記念撮影などを行いました。



【8月2日：ペナン島視察】



ペナン 2 日目は、MAYC ペナンメンバーの方々にペナン島を案内して頂きました。ほとんどのホームステイのご家庭は本島の方に住んでいたため、みんなで大型バンに乗り、ペナンプリッジを渡りペナン島へ向かいました。

ペナン島の中心スポットであるジョージタウンは 2008 年に世界遺産に登録されています。イギリス統治時代の影響が色濃く残る街並みが特徴です。

ハーモニー通りでは、イスラム教のモスク、ヒンドゥー教の寺院、仏教の寺院を訪れました。マレーシアを象徴する異文化の共存を肌で感じる貴重な体験ができました。私たちもモスクに入る際にはヒジャブを被りましたが、みんな初めてのヒジャブ体験でした。





ハーモニー通りの視察をした後は、ランチタイムです。本場のインドカレーを頂きました。大きな葉っぱの上にご飯と数種類のカレーが盛られ、手でご飯とカレーのルーを混ぜ合わせ、そのまま手で食べるスタイルです。初めて手で食事をしましたが、意外と食べやすくいつも食べるインドカレーより美味しく感じられました。

昼食の後は博物館へ行きました。インドの伝統的な工芸品や伝統衣装などを見る事ができました。博物館の館長さんがとても親切で展示品を一つ一つ丁寧に説明してくださりました。



次に向かったのはジェッティです。ジェッティとは栈橋を意味し、19 世紀頃に中国の福建省からペナン島へ移住してきた同じ姓の一族が一つの栈橋に集まり、そこで生活を営んでいました。今でもこの水上家屋で暮らしている人々が実際にいて、間近でその生活を見ることができます。水上家屋に挟まれた細い通りには、雑貨店やカフェが並んでおり、独特の雰囲気が漂っていました。

この日最後は、ペナン島のシンボルでもあるジョージタウンを散策しました。街中はストリートアートで溢れていて写真スポットがたくさんありました。人力で漕ぐ自転車タクシーのトライショーを利用して観光することもできます！トライショーの運転手の方々はとても親切で観光スポットがあるごとに止まって私たちの写真を撮ってくれました。



【8月5日：フェアウェルパーティー】

団員がMAYC ペナンの方々に感謝を込めて毎回恒例で開催されるのがフェアウェルパーティーです。このパーティーでは団員が事前に企画した出し物をMAYC ペナンの皆様に披露します。MAYC ペナン会長の挨拶や、プレゼント交換をした後、団員の一人である愛佳さんの英語落語から私たちの出し物がスタートしました。



今回はなんと5つもの、“日本文化を体験してもらう”ことをコンセプトにしたコーナーを設けました。

お茶

日本から持参したほうじ茶と緑茶を皆さんに振舞いました。マレーシアの方たちは甘い飲み物しか飲まない印象があったので日本のお茶を気に入ってくれるか心配でしたが、多くの人が「美味しい」と言ってくださり安心しました。

射的コーナー

割り箸で射的を作り、日本のお祭りの代表的なゲームである射的を体験してもらいました。景品の面白消しゴムは大人も子供も関係なく大人気でした。

日本語クイズ

絵や写真を使って、楽しく簡単な日本語を覚えてもらいました。

うちわ作り

白いうちに折り紙の切り絵を貼って、マイうちわを作ってもらいました。

ペナンの暑い気候にうちわはピッタリで多くの人に楽しんで作ってもらえました。

葛飾写真コーナー

ペナンの方々に葛飾区をより身近に感じてもらえるよう、葛飾区の有名な場所や私たちの暮らしている街の写真などを展示しました。日本に行ったことない方々が、葛飾の写真を見て、「葛飾に行ってみたい」と言ってくださったのは、葛飾区民としてとても嬉しかったです。



フェアウェルパーティーには毎回恒例の葛飾音頭を踊るコーナーもあります。私たちは浴衣を着て葛飾音頭を披露しました。MAYC ペナンの方々も途中から一緒に参加してもらい、みんなで踊りました。

写真撮影が永遠に終わらないほど盛り上がりを見せたフェアウェルパーティー。ペナンと葛飾区の友好がより深まった気がしました。

【8月6日：中等教育学校訪問】



今回、ペナンにある中等教育学校に訪問して英語で日本語を教えるという機会が用意されていました。まず学校に入ると生徒たちがマレーシア伝統の格闘技を披露してくださり、私たちの歓迎会が開かれました。ステージではペナン伝統のダンスが披露され、私たちも学校から伝統衣装をお借りしてステージと一緒に踊る機会をいただきました。

これは見よう見まねで踊っている時の写真です。

日本語を教える前に学生たちがマレーシア伝統の遊びや食事を体験できる場所を設けてくれ、私たちも実際にゲームをしたり、簡単な料理をしたりしました。ご飯をバナナリーフで巻いたり、マレーシアの伝統菓子である「オンデ・オンデ」を作ったりしました。



学校内で軽い食事をいただいた後は、いよいよ日本語の授業の時間です。団員一人がそれぞれ1クラス持ち、簡単な日本語を英語で教えました。パワーポイントなども使い、日本語を全く知らない生徒にもイメージしやすい授業になるよう努めました。授業の最後にはひらがなとカタカナの五十音表を配布し、学生に自分の名前を書いてもらいました。マレーシアの名前は日本語で発音するのが難しい名前が多く、日本語を初めて学ぶ人にとっては大変だったと思いますが、学生の皆さんはとても熱心に取り組んでくれました。



授業の後はマレーシアの学生と大学の教授と意見交換をしました。5つのグループに分かれ、団員一人につき大学教授が1名、学生が10人ほど参加し、マレーシアと日本の文化の違いについて意見を交わし、さまざまな視点からのディスカッションが展開されました。同じアジア圏で似ていると思っていた教育事情については異なる点も多くあり、新たな発見がありました。

このような流れで大きなイベントであった学校訪問は終了しました。このような機会がなければ関われなかったであろう、現地の中学生や高校生と出会う事ができたのは、とても貴重な体験となりました。



振り返ってみると、終始ペナンの人々の温かさに助けられた1週間でした。このような素晴らしい体験を私たちができるよう企画してくださった MAYC ペナンの皆様にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

8. 派遣団員自己紹介と体験談

牧野 美樹（まきの みき）

【自己紹介】



私は葛飾区で育ち、現在は都内の大学に通う3年生です。性別や国籍に関わらず、多様なバックグラウンドを持つ人々と関わるのが好きで、大学では英語と韓国語を中心に学び、最近新たに中国語の勉強にも取り組んでいます。高校時代から国際交流に強い関心があり、これまでにニュージーランドや韓国での留学や海外旅行をしました。今回、この派遣プログラムに参加した理由は、マレーシアという国の「多文化社会」に興味を持ったからです。

マレーシアは観光客が増加し、人気の旅行先としても知られていますが、私たちが訪れたペナンは都市部から少し離れた場所で、自然に囲まれ、多文化が共存する街でした。これまでに訪れた国とは異なる多くの魅力を持つこの地で、マレーシアの歴史や自然、そこに住む人々の温かさに直接触れることができ、とても貴重な経験となりました。

【ホストファミリーの紹介】

私がホームステイをさせていただいたのは、マレー系の5人家族で、ホストマザー、ホストファザー、そして仲良しの3人兄妹でした。ペナンに到着した空港で初めて対面し挨拶をした時から、常に笑顔で、どんな時でも私を気にかけて家族の会話に参加させてくれる、とても明るく温かいホストファミリーとの7日間は、かけがえのない大切な思い出です。



↑ホストファザーの親戚の農園で果物をとったり、魚釣りをさせてもらいました。

家族間ではマレー語が使われていたため、マレー語が分からない私は、会話を英語に訳してもらいながら一緒に会話を楽しんでいました。ホストマザーとホストファザーは、最初に「私たちはあまり英語が得意ではなくて、ごめんね」と言っていたのですが、7日間の間、できる限りわかりやすい英語で話しかけてくれて、その優しさには感謝しきれません。

ペナン到着後、3日目と4日目には、ホストファミリーが私にペナンの街を案内してくれました。朝6時に起床し、朝食のために7時前には車で出発です。そしてそのままペナン観光へ連れて行ってもらいました。移動は基本的に車だったため、暑さに悩まされることもなく、また店内は涼しく、非常に快適に過ごすことができました。

日本との生活でギャップを感じた瞬間は、マレーシアの人々が夜遅くまで活動していることです。マレーシアでは、夜遅くまで営業している屋外の店が多く、夕食は外で食べることが多かったです。夜は気温が下がるため、外での食事はとても快適でした。ホストファミリーは夕食後、必ずデザートを食べにもう一軒立ち寄ってから帰宅していました。食事の際、一つのテーブルをみんなで囲み、何気ない会話を交わす瞬間がとても幸せで、大好きな時間でした。デザートを食べ終わると、帰宅時間はいつも24時前後でした。朝から夜遅くまで、私のために最適なプランを何度も練り直してペナンの街を案内してくれたホストファミリーに心から感謝しています。地元の人気店やスポットを知ることができ、現地の人と同じ視点で街を楽しむことができたことがとても嬉しかったです。



↑ホストマザーの手料理



↑屋外のお店で夕食



3人の兄妹はすぐに私を温かく受け入れてくれて、「今日から4人兄妹だね!」と言ってくれたことが心から嬉しかったです。家で時間があるときは、家族全員でリビングに集まり談笑し、日本のアニメや人気の車について教えてもらいました。マレーシアの人々が幼い頃から日本のアニメに触れてきていると聞いた時は、日本のサブカルチャーが両国を繋いでいることを嬉しく感じました。

また、ホストブラザーが日本車の大ファンで、日本車について熱弁してくれたことも忘れられない思い出です。マレーシアと日本の強い絆を感じ、日本の文化をさらに大切にしたいと改めて感じる貴重な時間でした。この素敵な出会いと経験、気づきを与えてくれたホストファミリーに心から感謝しています。

【公式行事：ペナン島ツアー（8/2）】

7日間、ホストファミリーや MAYC ペナンメンバーの方々と共に訪れたペナンの魅力ある街をいくつか紹介したいと思います。

●多文化が混ざり合う『ジョージタウン』

ジョージタウンは、マレーシアを代表する観光地「ペナン島」にあり、多文化が融合した有名な観光地です。MAYC ペナンのメンバーが、滞在2日目のペナン観光でジョージタウンを案内してくださいました。一番印象的だったのは、インド様式のモスクや中華系の寺院、イスラム建築のモスクが同じ街の中に共存している光景です。道をひとつ曲がると、インド系の人々が集まるエリアがあり、ワゴンで売っているものが変わります。さらに、またひとつ曲がり角を進むと、中華系の人々が集まる寺院が建っているため、不思議な感覚を覚えました。多文化が無作為に混ざり合っているというよりも、エリアごとにまとまって存在している印象で、ジョージタウンの街を歩きながら多様な文化に出会えたことがとても興味深かったです。



●ペナンの街が一望できる『ペナンヒル』

ペナンに到着してから3、4日目は、ホストファミリーとの時間でした。この2日間、朝から夜遅くまでホストファミリーとペナン観光をしました。その中でも、ペナンヒルから見た展望は今でも鮮明に覚えています。ペナン島の最高峰に位置するペナンヒルは、100年近い歴史を持ち、ケーブルカーやハイキングで登ることができます。今回は、ケーブルカーで登りましたが、観光客だけでなく、地元の人々も多く見かけました。この日は天気が良く、遠くまで街並みが見え、海と隣り合う自然豊かなペナンの街がとても美しかったです。夕日もきれいとのことで、日の入りまで2時間ほど景色の見えるベンチでホスト

ファミリーとのんびり過ごしました。夕方になると、涼しい風が吹き、過ごしやすい気温となり、ゆっくりと流れる時間を感じながら、とても素敵なひとときを過ごしました。



●種類豊富なトロピカルフルーツが食べられる楽園で「初ドリアン」

ホストファミリーの家の近くに、一日中賑わい続ける野外のフルーツ屋がありました。車で通るたびに、ドリアンの匂いが漂い、ドリアンを食べたことがなかった私は「一度食べてみたい」とお願いしていました。夕食のあと、ホストファミリーに『PakTeh Fruits (パクテ フルーツ)』に連れて行ってもらい、ドリアンはもちろん、日本では見たことのない種類豊富なトロピカルフルーツも食べることができました。ドリアンは数種類あり、その場で中身を紹介してもらいながら選ぶスタイルで、甘いドリアンやフルーティーなドリアンなど、初めての私にもわかりやすく説明してくれました。いざ、ビニール手袋を装着して一口食べてみると、独特な香りとクリーミーさに驚きました。初めて食べたため、味の好き嫌いはまだ判断できませんでしたが、日本では滅多に食べられないドリアンを体験できたことに感動しました。この研修の目標の一つでもあったドリアンを試食することができ、3種類を食べ比べながらその違いを知ることができたのは貴重な経験でした。また、ドリアン以外にも、見たことのないフルーツをたくさん食べることができました。私の No. 1 フルーツは、『マンゴスチン』でした。



↑数えきれないほどのフルーツが売られて、私が質問をするとホストブラザーが丁寧に説明してくれました。初めて目にするフルーツもあり見ているだけで楽しかったです。

【公式行事：中等教育学校訪問（8/6）】

今回の研修で、私たちは中等教育学校を訪問し、1クラス30人前後の教室で日本文化や葛飾の街の紹介、また、日本語の授業を行いました。学校に到着すると、オープニングセレモニーが開かれ、伝統舞踊などの想像をはるかに超えた華やかなおもてなしに感謝の気持ちでいっぱいでした。その後、緊張しながらも私たち団員5人はそれぞれ各教室に分かれて授業を行いました。私のクラスでは、約30人の生徒が待っており、私が扉を開けると同時に元気に挨拶をしてくれたので、少し緊張がほぐれた気がしました。そして、自己紹介を終え、文化を紹介していると、生徒たちが好きなアニメや日本の観光名所を次々と挙げてくれて、生徒たちのエネルギーとクラス全体の明るい雰囲気にとっても助けられました。また、私が日本語を教えていると、生徒たちが予想以上にたくさんの日本語のフレーズを知っていることに驚くとともに、とても嬉しかったです。わからないことがあるとその都度質問をしてくれたので、私自身も多くの気づきを得られ非常に貴重な経験となりました。また、中等教育学校を訪問する際、ホストシスターから彼女が実際に使っていた「バジュ・クルン (baju kurung)」というイスラム教徒の女性が着る伝統衣装をいただき、当日着ていきました。デザインが美しく、生地も柔らかく、とても動きやすい伝統衣装でした。



【最後に】

私たちは、この7日間で数え切れないほどのおもてなしを受け、マレーシア・ペナン州の皆様の温かさや優しさを実感することができました。お伝えしたいマレーシア・ペナン州の魅力はまだあります。この素敵な出会いと思い出、そして感謝の気持ちを忘れずに、より多くの人にその魅力を伝えていけるよう、これからも精進していきたいと思います。

最後に、マレーシア・ペナン州での素晴らしい出会いと貴重な体験を支えてくださった葛飾区、ペナン州の皆様、そしてホストファミリーに深く感謝申し上げます。この経験を生かし、今後も引き続き国際交流に携わり、次は私たちがペナンの皆様にたくさんのおもてなしをしていけるよう努めてまいります。

田中 詳子（たなか しょうこ）

【自己紹介】



結婚を機に主人の地元葛飾区に移り住み早25年の月日が流れました。のびのびとした環境の中での子育てを終え、お陰様で子どもたちも既に成人をむかえました。現在私は区内の小学校で特別支援教室専門員として働いています。毎日元気いっぱいの子供たちと学校生活を送っています。そんな私の職場には近年様々な国籍のお子さんたちが入学してきます。日々の学校生活の中で文化や宗教の違いを多少感じながらも理解を深める訳でもなく、今年度も生活をスタートさせていました。そんな中、ふとこのマレーシア・ペナン州青年ホームステイ派遣プログラム団員募集の記事が目に残りました。このプログラムに応募することに何の迷いもなくトライする事を決めました。そして今回、4人の大学生と共に最年長の私が参加する機会をいただきました！現

地へ行っても付き添いの先生と勘違いをされていましたが、4人の大学生の足を引っ張らないよう少々気をつかいながらも、皆で協力しながら素晴らしい交流が出来たこと、感謝の気持ちでいっぱいです。では、現地の方々には「センセイ」、ホストファミリーには「オカアサン」と呼ばれた私の1週間を報告させていただきます。

【公式行事：ホストファミリー対面式（8/1）】



私たち 5人は無事予定通りペナン国際空港に到着。MAYC ペナンの方々、ホストファミリーから熱烈的な歓迎を受けました。

旅の疲れも吹き飛び、いよいよ私たちの国際交流の始まりです。ドキドキの中、空港内のカフェにてホストファミリーと対面しました。

【ホストファミリーの紹介】



今回私がお世話になったのはマレー系のご家庭。Iman(イマン)・Anna(アナ)共に26歳の若いご夫婦で、奥様は妊娠7か月。私の長男とそれほど変わらない年齢で、「息子さんはなんて呼んでいるの?」という会話から、私のことを「オカアサン」と呼んでくれることになりました。マレー系のお宅には珍しく、1つ屋根の下にはご夫婦+猫1匹(屋外ゲージの中)。猫の名前は“ネコ”でした。

家は空港から約20分の所にあり、ペナンの中心地にあたるそうです。大きな道路から道を少し外れ、家が密集した住宅地へ入っていくのですが、そこはまるで迷路の様。しかも道路の左右には路上駐車した車がずらり。車は一家に一台ではなく、一人一台持っているため路上駐車は当たり前とのことでした。家はガレージ付きの2階建てのお宅。家の中はとてもシンプルで、清潔感のある若いご夫婦らしい素敵なお宅でした。家に入ると右にリビング、左にキッチンがありました。トイレ・シャワールーム・洗面所が一緒になっていて、日本でいう浴室の洗い場にトイレがついているといったイメージでしょうか。初日こそ少し戸惑ってしまいましたが、すぐに慣れることができました。そして私の部屋は2階の一室を準備してくださいました。ベッド・ハンガーラック・大型ファンがついているシンプルなお部屋。寝室にはエアコンが無かったため、少し寝苦しかったです。暑さは苦手なのですが、ペットボトルを凍らせたり、工夫して何とか快適な1週間を送ることができました。

★ホストファミリーの家族を紹介します★

〈イマンの家族〉

マレー系のご家庭は大家族が多いと聞きましたが、ホームステイ先はご夫婦だけの暮らしでした。しかし彼の実家はすぐ近所にありました。お父さま・お母さま・お姉さま・妹さんが暮らしており、日本から来た初対面の私を皆さん笑顔で快く招き入れてくださいました。お姉さまは政府関係のお仕事に就いており、お仕事で日本にもいらしたことがあるとのこと。「日本が大好き!」と、とてもフレンドリーな方でした。これから出張とのことで短い時間での交流でしたが、たくさん写真を撮りとても楽しいひとときでした。そして別の日にはかわいい甥っ子たちが遊びにきてくれました。幼稚園が終わるとご両親の仕事がおわるまで実家で預かっているそうです。かわいらしいユニフォームに身を包み、人見知りもなく、私とは英語でコミュニケーションがとれました。おみやげのけん玉で夢中で遊んでいました。



〈アナの家族〉

アナのご実家へも伺いました。家から車で10分くらいの所にあり、とても小さな古い村とのこと。お父さま・お母さまが暮らしていらっしゃいました。建物は2階建ての昔ながらの伝統的な造りとの事でした。中にお邪魔すると天井がとても低く感じました。壁は木でできており、奥行きのある広いお宅でした。外にはマンゴーやパパイヤの木があり、隣にはモスクがありました。そしてお母さまに連れられてご近所に突撃訪問。ご近所は皆友達だからと声をかけてくださったのですが、「今オリンピック見ているからまって!!」と。お邪魔だったかな、と少し心配をしたのですが、しばらくするとご年配のご姉妹が出てきて下さり、心配をよそに大歓迎をうけました。ここでも見ず知らずの日本から来た私を快く受け入れてくださるマレーシアの方々の優しさに触れることができました。



【食事】

朝ご飯はゆっくりと自宅でいただきました。基本は外食や屋台でいただくのがマレーシア流の様ですが、家庭料理を味わうという経験もさせていただきました。自宅でいただいたのは カヤジャムとスチームした食パン、エッグトーストや卵料理に少し甘めのおしょうゆ?をかけていただいたりしました。



お昼ご飯・夕飯は夫婦がチョイスしてくれたお店でいただきました。

人気ユーチューバーの紹介したお店へ行ったり、少し離れた小さな町のお店で食べたり、ショッピングモールのフードコートで食べたり、まさに私が経験したかった“現地の方の普段の生活を体験すること”を叶えてくれました（少し若者向けでしたが）。1つ心残りなことはドリアンを食べる機会がなかったことです。これは次にマレーシアへ行った時の楽しみにします。



【公式行事：フェアウェルパーティー（8/5）】

ペナンでお世話になった MAYC ペナンの方々、ホストファミリーへの感謝の気持ちを伝えるため、私たちは日本にいる間から一生懸命準備をすすめてきました。団員全員が浴衣に身を包み、午後8時にとても立派な会場でのフェアウェルパーティーが始まりました。

まずはペナンの方々が伝統舞踊や歌などを披露してくださいました。続いて、MAYC ペナンの代表者及び、ペナン州を代表してご来場された YB GOOI ZI SEN（グーイ ジセン）大臣とのプレゼント交換や団長による挨拶で、長年交流を続けてきたことにお互いに感謝の気持ちを伝え、その後食事をしながら楽しいひと時をすごしました。

そしていよいよ団員主催のおもてなしの時間となりました。今回私たちは“縁日”をテーマとし、緑茶とほうじ茶の試飲コーナー、手作りの射的コーナー、手作りうちわのコーナーを準備し、皆さんに日本の伝統文化を体験していただきました。そして今回初の試み、落研出身メンバーによる「英語落語」を披露するなど盛りだくさん内容で、私たちなりのおもてなしができたのではないかと思います。最後に恒例「葛飾音頭」でさらに場を盛り上げ、大盛況の中幕をとじました。



【最後に】

今回このペナン島ホームステイ派遣での素晴らしい経験をさせていただけたことは、今までこのプログラムに携わってこられたすべての方々の交流から生まれたものだと感じました。心から感謝申し上げます。年代もまったく違う4人との出会い、準備から帰国まであっという間に過ぎてしまいましたが、かけがえない時間を過ごすことができました。今後はこの経験を皆様にお伝えするとともに、来年はペナンの方々へ葛飾の素晴らしい魅力を紹介したいと思います。そして葛飾区の国際交流事業がより良い形で広がり、さらに素敵な葛飾区になるよう貢献したいと思っています。

菊地 愛佳（きくち あいか）

【自己紹介】

私は生まれも育ちも葛飾区四つ木の大学4年生です。私の父は1987年に第1期生として、母は1992年に第4期生として、当プログラムでペナンを訪問しています。そのため、幼い頃から両親に連れられて「マレーシア会」というこのプログラムの参加者の集いに参加しており、ペナンの方々と交流する機会もありました。いつしか一度も訪れたことのないマレーシアが身近な国に。この度、「大学生になったら私もペナン派遣に行きたい」という長年の夢を叶えることができました。

私は中高大と落語研究部に所属し、日本の伝統文化に関心を持っています。今回の派遣ではマレーシアの伝統文化や宗教、生活様式を学ぶと共に、落語や着物、日本語の魅力を発信したいと考え、準備を重ねてきました。

【ホストファミリー紹介】



私がお世話になった Tang（タン）さん一家は中華系のご家庭です。ペナン島ではなく、マレー半島側にある大規模なマンションに、家族7人で暮らしています。2024年に引っ越してきたばかりのマンションは、個室が4つ、トイレ・シャワーが3つずつあり、綺麗で広々としていました。私にも1部屋ご用意いただきました。

家族は皆、中国語を話しますが、方言が強く、第二外国語で中国語を学んだ程度の私の力では、彼らの会話をあまり理解することができませんでした。それでも、お互いに英語と中国語を駆使して、楽しくコミュニケーションを取ることができました。



●Tang Han Way（タン ハンウェイ）さん

車を運転し、あちこち連れて行ってくれる奉仕的なパパ。かつて葛飾に派遣で来たことがあります。在宅でセールスの仕事をしていて、常にお客さんや同僚と電話をしていました。アニメが大好き。



●Wong Yuh Nie（ウォン ユーニー）さん

聡明で家族をしっかり統率しているママ。私の興味関心をよく理解し、図書館や市場、お菓子屋などに連れて行ってくれました。英語はあまり得意でないようですが、気遣って話してくれ、とても助かりました。



●Tang Yi Xin（タン イーシン）

日本が大好きな14歳の女の子、イーシン。浴衣を着付けてあげたら、とても喜びました。「日本人がフルネームで名前を呼ぶのはどんな場面？」「あなたは年上だから、アイカさんと呼んだほうがいい？」など、日本について、私でも答えに詰まるような質問をたくさんしてくれました。イーシンのおかげで、素敵な文化交流ができました。



●Tang Chen Dong（タン チェンドン）

弟、というか我が子のようにかわいい5歳の男の子。みんなから、Hoho(ホホ)の愛称で呼ばれています。私たちはどこへ行くにも手をつないで一緒。家中を追いかけっこしたり、散々ズルをされながらゲームしたりと、仲良く遊びました。ママによると、私が帰国した後、私のことを部屋中探し回って泣いていたそうです。



●Wong Seng Yang (ウォン センヤン) さん

料理が上手で寡黙なおじいちゃん。暑いのか、家の中では常に上半身裸で暮らしていました。



●Tan Sew Hea (タン シュウヒア) さん

家事全般を担っており、毎日私のために洗濯をしてくれたおばあちゃん。歌が大好きでよく聞いていました。



●Wong Lin Nie (ウォン リンニー) さん

同居ながら、なぜか家の中で見かけることは稀なリンさん。ママのお姉さんです。観光に付き添ってくれ、親切にしてもらいました。

【訪れた場所 ～観光地編～】

ペナン3日目は、パパ、イーシン、ホホ、リンさん、パパのお姉さんの Terry (テリー) さん、パパのお母さんの7人で観光へ。ペナンヒル、極楽寺、THE TOP PENANG (ザ トップ ペナン) の名所に連れて行ってもらいました。



渋滞を避けるため、朝5時半の出発でしたが、そのおかげで、ペナンヒルで日の出を見ることができました。

ペナンヒルへは2023年に100周年を迎えたケーブルカーで登ります。ケーブルカーの乗り口が定刻になっても開かなかったとき、イーシンから、「日本人なら通報しますか？」との質問。「日本人なら係の人を呼ぶかな？」と答えましたが、マレーシアの人々はただ待っていることが多いそうです。

その後、私たちは2時間ほど歩き、林の奥深くまで散策をしました。そこで、日本では見たことのない植物やサルに出会いました。帰り道はカートに乗車。

心地よい風が吹いて、気持ちよかったこと。



ここで、私が何よりも驚いたことは、決してバリアフリーが行き届いているわけではないペナンヒルですが、車椅子に乗った人々も大勢来ていたことです。パパのお母さんもその一人。おばあちゃんをほったらかして、各々好きな場所に行ってしまう家族に、私は終始はらはらしっぱなしでした。しかし、障害のあるなしにかかわらず、みんなが楽しそうに過ごしている環境に心ひかれたひと時でありました。





ペナンヒルを満喫した後は、ペナンでもっとも有名な仏教寺院の一つ、極楽寺へ。写真のように大きな観音像があります。こちらの寺院は高台にあり、ペナンの街が一望できました。

午後は、コンタの屋上にある THE TOP PENANG へ。

ここは母が訪問した1992年にはヘリポートだったそうですが、現在は空中散歩、レストラン、博物館などがあるテーマパークに様変わりしています。屋上でガラス張りの道を歩く RAINBOW SKY WALK (レインボー スカイウォーク) とビルの周囲を半周する SKY BRIDGE (スカイブリッジ) を体験。

高所恐怖症のパパは終始おびえながら、私たちのはしゃぐ姿を写真に収めてくれました。



【訪れた場所 ～生活編～】

ペナン4日目の朝、パパ・ママとともに市場へ。Tang さんのお宅では、休日に一週間分の買い出しをするそうです。この日訪れた市場は、中国人の売り手・買い手が多い「マカ(MARKET)」。



市場は野菜や果物はもちろん、調味料までもが大量に積まれて量り売りされています。

帰宅後は、市場で買って来た食材を使ってカレー作り。私は日本でいう空芯菜のような野菜を手でちぎるお手伝いをしました。

ペナン5日目。朝起きると、イーシンはすでに学校に行っており、家にいませんでした。ペナンは常夏のため、学校に夏休みはないそうです。イーシンの中学校は遠いので、朝6時30分に車で出発し、7時30分から授業開始。中学からは授業言語はすべて英語だそうです。30分の授業が多い時で日に12コマありますが、13時30分にはお迎えとなり、午後は家でんびり過ごせます。

私は家を7時30分過ぎに出发し、ホホを幼稚園まで車で見送りに行きました。ホホの幼稚園は幼小一貫校で、8時から12時まで。幼稚園からすでに英語の授業がスタートしています。(写真左)



その後、日本へエアメールを出すため、郵便局へ。日本へは葉書1枚1RM(=約35円)でした。(写真右)

ペナン6日目、「本が好き」という話をしていたら、ママが州立図書館に連れて行ってくれることになりました。官庁街にある中央図書館に来るのはイーシンも初めてでそうで、二人で大興奮。



マレーシアの図書館は、マレー語・中国語・タミル語・英語など、コーナーごとに異なる言語の本が置かれています。そのため、各言語の蔵書はどうしても少なめです。私は児童書コーナーで漢詩の本を発見。国語の授業で学んだ「江南の春」が好きだと話すと、ママは日本でも漢詩を学ぶことに驚いていました。そこで、「江南の春」と「静夜思」を中国語と一緒に音読してくれました。

ペナン最後の夜は、パパの信仰する道教の「鬼節」の祭り（ゴーストフェスティバル）へ。日本でいうお盆のような感じでしょうか。寺院でお祈りし、巨大な装飾物（博多の山笠のようなもの？）と踊りを見物。電飾が煌煌ときらめくにぎやかな中で家族写真を撮って、ペナンでの1週間が幕を閉じました。



【食べ物編】

ペナンの食事は甘いか辛いかのどちらか。揚げ物が多くあります。

特に美味しかったものは果物。マンゴスチン、ランブータン、ランサなどの果物は8月が旬のものも多く、露店にたくさん並んでいました。ただ、ドリアンは匂いが強烈で、一口が限界でした。



上段左から

- ・ ミーゴレン
- ・ ドリアン
- ・ カレー

中段左から

- ・ エッグケーキ
- ・ 寿司@イオン
- ・ 肉骨茶

下段左から

- ・ カプトガニ
- ・ おかゆ
- ・ 飲茶

【出会った人々】

私は父母共にこのプログラムに参加した経験があるということもあり、ペナン4日目の午後は古くからの友人たちとの懇親会を開催してもらいました。30年の時の隔たりを感じないほど、お互いの思い出話や今の家族の話に花が咲きました。



まず、お会いしたのが、両親の派遣時の現地リーダー Ahmad Zanian(アマザニアン)さん(左)と母の旧友 Yong (ヨン)さん(右)と奥さん(右から3番目)です。Ahmad Zanianさんは葛飾の派遣メンバーのことをよくご存じでした。



夜は、Yongさんと旧MAYCペナンメンバーとのパーティー。海沿いの海鮮のお店で、サンセットを眺めながら、語り合いました。葛飾に来たことのある方も大勢いました。

また、5日に行われた公式行事・フェアウェルパーティーには、MAYCペナンの若手メンバー、オキさん夫妻をはじめとするTangさん家族の仲間も駆けつけてくれました。



←オキさん夫婦と Quek (クエック)さんと孫(左)

←MAYC ペナン若手 中華系メンバー(右)

【終わりに】

今回の派遣では、通常の観光旅行では味わえないマレーシアの日常生活を深く理解することと、私自身が長年携わってきた落語や着物などの日本文化の魅力を発信することの二つを目標としていました。多様な世代から構成されているTangさん一家との生活や、公式プログラムを通して、その両方を達成することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。学校訪問・フェアウェルパーティーでは、実際に英語で小囃子を披露し、ペナンの皆さんに楽しんでもらうことができました。

また、Tangさんはじめ多くの方のご協力で、母が派遣の際に交流した旧友のYongさん、Ahmad Zanianさんらにも会い、30年の月日を越えた再会を果たすことができました。このつながりを大切に、今度は母を連れて、マレーシアの仲間たちに会いに行きたいと強く感じています。

そして何より、ホストシスターのイーシンは18歳になったらこのプログラムで葛飾へ来ることを楽しみにしています。彼女との出会いを通して、日本人として、日本の魅力をよりの確に発信できるようになることの重要性を痛感しました。

過去から、現在、そして未来へと、葛飾区の国際交流を次世代につないでいけるように、今後も貢献していきたいと思います。

緒方 一華（おがた いちか）

【自己紹介】



現在、千葉県の大学に通う二年生です。生まれも育ちも葛飾区で、高校時代には区内にある高校で吹奏楽部に所属し、地域行事での演奏を通して、地域の方々とのつながりの大切さに触れる機会をいただきました。この経験から、地域のつながりの温かさに魅力を感じ、このプログラムを通して、さらなる葛飾としてのつながり、そして葛飾区とペナン州のつながりを深める一員になりたいと考えました。

また、大学では国際コミュニケーションを専攻しており、日常的に様々なバックグラウンドを持つ方々と交流しています。しかしながら、異文化を日本の文化や習慣に基づいて受け入れるという環境が多いため、マレーシアにおいてはどのように複数の異文化が共存しているのかに非常に興味を持ちました。ホームステイを通じて、マレーシアの方々の生活を直に感じ、学びたいという思いから、今回応募させていただきました。以下に、私が過ごした一週間の体験を振り返らせていただきます。

【ホストファミリーの紹介】



私が今回お世話になった家庭は、マレー系のご家庭でした。MAYC ペナンの中心メンバーであるサイフルさんのご家庭で、過去にこのプログラムで日本に来たことがある方が3名いらっしゃいました。

この一週間、温かくもてなし、まるで家族のように接して下さったホストファミリーには、感謝の気持ちでいっぱいです。帰国する際には、私の祖父母や両親、兄弟のためにたくさんのお土産まで準備して下さり、私の家族までも大切にその姿勢に驚き、感動しました。ここで、そんな愛情あふれるホストファミリーをご紹介します。

祖父

マレーシアについて様々な側面からお話してくださいました。地理や歴史だけでなく、食べ物の歴史や食べ方、伝統衣装の着方など、さまざまなことを教えていただきました。また、一緒にマーケットに行った際には、立ち寄る全てのお店で、私が日本から来たことを紹介して下さり、お店の方々からも温かい歓迎を受け、マレーシアの人々の優しさに触れることができました。

祖母

「Don' t be shy! (遠慮しないで!)」そう言ってお腹いっぱい私に、さらにたくさん食べるように勧めてくださいました。手作りの料理はとても美味しく、「おいしい」と言うたびに、食事中も食後も、さらにたくさんの料理を出してくださりました。

父

私がペナンに到着した2日目から3日間、タイに出張していました。仕事の関係で交流時間は公式の行事が主でしたが、仕事が忙しい中で、行事の運営だけでなく、送り迎えや事前の準備、確認もたくさんしてくださりました。

母

どんな時でもニコニコ笑顔で見守ってくださいました。食事中にも、辛い物が苦手な私に、私でも食べられそうな料理をたくさん勧めてくださり、エビの殻までむいてくださるほど。とても優しく穏やかな方でした。

叔母1

父方の叔母さんで、仕事の関係でアメリカに出張に行っていました。空港での見送り時にのみ会ったのですが、とても明るくユーモアのある方でした。

叔母2

過去にこのプログラムで葛飾を訪れたことがあります。今回の派遣期間中、まるで母親のように温かく接してくださり、さまざまな面で支えてくださいました。多くの場所に連れて行ってくださり、移動中にはマレーシアの交通事情や仕事環境、イスラム教についてなど、たくさんのことを教えてくださいました。

兄1

昨年、このプログラムで葛飾を訪れたことがあり、その際のホストファミリーのことなどを話してくれました。私たちがペナンに到着したとき、バイク事故でケガをして入院中でした。そのため、初めて会ったときには顔に大きな傷があり、手は包帯で巻かれていて驚きましたが、友達と遊ぶ場所に連れて行ってくれるなど、とても優しくかったです。

兄2

交流の時間は少なかったものの、食事の時間や食後の団欒をリビングで過ごしていました。そのようなリビングでくつろいでいるときにも、私は9歳と5歳のいとこたちと一緒にボール遊びやボードゲームを楽しみながら賑やかな時間を過ごしていましたが、笑顔で見守ってくれました。

妹

今回代表としてホームステイを受け入れてくれ、派遣中ずっとそばにいてくれました。二人のいところを兄弟のように面倒を見ていて、とても愛されている存在です。私より年下ですが、私のこともずっと気にかけてくれました。コロナ禍では、日本語の勉強をしていたようで、日本語の練習ノートを見せてくれた

り、挨拶や食べ物の名前を日本語を少し話してくれたりしました。また、夜中の3時すぎまで互いの生活や学校のことを話し、とても充実した時間を一緒に過ごすことができました。

いここ1

周りをよく見て、とても優しい9歳の男の子で、一般の学校とイスラムの二つの学校に通っています。飛行機やドローンが好きで、見つけると毎回嬉しそうに教えてくれました。いろいろな種類のボードゲームと一緒にし、ゲームのルールや進行状況を英語で説明してくれ、とても楽しませてくれました。また、買い物に行った際には、自分の好きなアイスやジュース、パンなどの場所に手を引っ張って連れて行ってくれました。

いここ2

元気いっぱいな5歳の女の子です。マレー語、英語、タミル語、アラビア語の4か国語を話すことができます。最初は人見知りをしていましたが、ボードゲームや手遊び、ボール遊びをしていくうちに、「kakak（カカツ：マレーシア語でお姉ちゃん）」と呼んでくれるようになり、心を開いてくれました。特に、ティッシュを丸く丸めたものを隠すゲームが気に入ったようで、車での移動時間のほとんどをそのゲームで過ごしました。人形やユニコーン、プリンセスなど、かわいいものが大好きで、自分の部屋に案内してくれて、お気に入りのものをたくさん見せてくれました。

【訪れた場所】

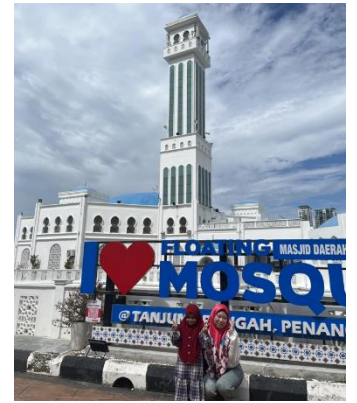


ペナン滞在中の朝食は、マーケットで購入して自宅で食べるスタイルでした。道路沿いに小さな屋台並んだマーケットから、フリーマーケットのようにいくつものお店が集まる大きなマーケットまで、毎朝異なる場所に連れて行ってもらいました。7時30分頃には、どのマーケットも賑わい、大きな声での会話があちらこちらから聞こえてきました。静かな電車の中で眠気に襲われる私の朝とは大きく異なり、人々の活気に圧倒されました。



3日目に、家から車で約1時間の距離にある「Agro Park（アグロ パーク）」に行きました。地元の人たちはこの場所をペナンのバリと呼んでいるようで、地元の方々が賑わっていました。ヤシの木に囲まれ、ココナッツの実が並ぶフォトスポットがたくさんありました。また、昔の住居の展示や、マレーシアの伝統的な遊び「Congkak（チョンカ）」の木製ボードなども見ることができました。この日はとても暑く、ソフトクリームを食べましたが、受け取ってすぐに溶け始めるほどでした。

4日目には、「Floating Mosque（フローティング モスク）」というモスクを訪れました。このモスクは海を臨む場所にあり、洗練されたデザインの建物と美しい海が印象的でした。モスクの中にも入り、礼拝時に着用する正装の貸し出し場や、礼拝前に手足や顔を清める場所を実際に案内してもらい、説明もしてくれました。



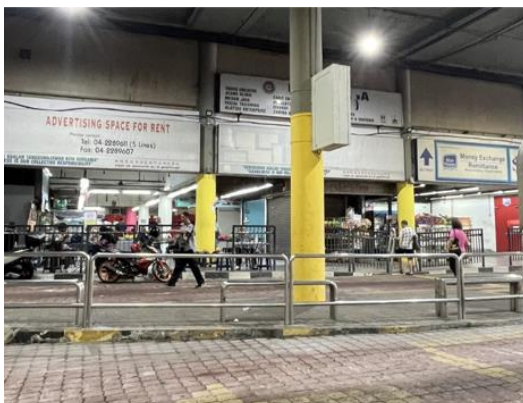
その際、私が義務教育でイスラム教やムスリムの方々について学んだことを伝え、驚きながらも喜んでくれました。

モスクを訪れた後、事前にドリアンを食べてみたいと伝えていたため、「Durian Hill（ドリアン ヒル）」に連れて行ってもらいました。車で坂道を30分ほど登るのですが、カーブがきつくて酔ってしまうこともあるそうです。しかし、車の中でみんなで遊んでいたため、酔う暇もなくあっという間に頂上に着きました。ドリアンの匂は過ぎていたため、木に実がなった様子は見られませんでした。とても高い木と美しい景色を楽しむことができました。



5日目には、ホストファミリーである Alesha（アレシャ）の幼馴染の Haniis（ハニス）と一緒に「Pinang Hill（ペナンヒル）」に行きました。ペナン島と本州を行き来するには、二種類の橋とフェリーの三通りの方法があり、この日はフェリーで本州へ渡りました。通勤でバイクに乗ったままフェリーを利用する人が多く、バイク専用の待機エリアと、それ以外の乗客が座るエリアがありました。

本州に到着後、「Pinang Hill」まではバスで移動する予定でしたが、予定時刻を10分以上過ぎてもバスが来なかったため、タクシーを利用しました。また、「Pinang Hill」から次の場所へ移動する際、運転手が発車時刻になっても現れず、そこでも10分ほど待つことになりました。普段からバスは時間通りに来ないことが多いらしく、Alesha も Haniis も普段バスを使わないと言っていて、すごく驚きました。



【最後に】

今回の派遣を通じて、多くの素晴らしい方々との出会いを経験し、多くの皆様のご協力によってこのような活動が成り立っていることを改めて実感しました。また、1987年から続く葛飾とペナンの友好交流に携われたことを大変嬉しく思うと同時に、今後もこの関係を繋ぎ続ける役割に少しでも貢献できればと強く感じています。貴重な機会と経験をいただけたことに心より感謝申し上げます。

松浦 理乃（まつうら りの）

【自己紹介】



私は現在都内の大学に通っている大学一年生で、生まれた時から19年間ずっと新小岩に住んでいる生粋の葛飾っ子です。私が生まれ育った新小岩は非常に国際色豊かな地域で、実際に多くの外国人の方が暮らしています。私が通っていた小学校や中学校にも様々なバックグラウンドを持った人が多くいたため、幼い頃から自分と異なる文化に触れる機会がたくさんありました。その過程で異なる文化が持つ魅力や、日本における多文化共生の可能性について興味を持つようになりました。マレーシアは主にマレー系・中華系・インド系という異なる3つの民族から成り立つ国家であり、民族ごとに宗教も異なります。それでも、多様な文化や宗教が共存し、共に社会を築いている点はとても興味深く、そこから学べることは大きいのではないかと思います。今回このプログラムに参加させて頂きました。

↑マレーシア滞在中、一番一緒にいたイズワニと。

私のホストファミリーはマレー系のご家庭で、お父さん・お母さん・娘さん（二人）・娘さんの旦那さん、お孫さん（高校生の女の子）の六人でした。他にも近くに親戚が住んでいて週末に一緒に出かけたり、夜ご飯だけ一緒に食べたりなど、ファミリー全体から温かい歓迎を受けました。私のホストファミリーはあまり英語が堪能ではなかったため、現地で覚えた少しのマレー語と身振り手振りでなんとかコミュニケーションを取っていました。ホストファミリーの中にイズワニという高校生の女の子がいて、歳が近かったこともあり、その子とホームステイ中はずっと一緒に過ごしていました。帰国した後でも連絡を取っていて、今でもお互いの近況を報告しています。



↑この日は私の最後の日だったこともあり、親戚中が集まってくれてレストランで食事をしました。

【ホームステイ先のお家】

ホームステイ先のお宅は、二階建ての一軒家の家でした。一階には家族みんなが集まるリビング、キッチン、お風呂、トイレなどがあり2階には寝室がありました。私の部屋も2階の一角にありました。家に関して日本と違う点はかなりあったと思います。例えば、トイレは水洗ではなく自分で水を汲んで流したり、寝室にエアコンが無かったり（ちなみにマレーシアの気候は日本の夏とほぼ同じです）、シャワーから水しか出なかったりなど…日本の生活に慣れているとホームステイ中の生活は正直大変だと感じることもありました。しかし「郷に入れば郷に従え」という言葉があるように、現地の方法で1週間暮らしてみると意外と慣れるものです。最後の方には現地での暮らしが自然に感じられるようになりました。

【マレーシアでの食事】

マレーシア、特にペナンの人々は本当に食べることが大好きです。私のホームステイしたご家庭はグルメだったこともあり、ホストファミリーと過ごす日はほぼ、ペナンのレストラン・屋台巡りでした。そのおかげで、ペナンの美味しい料理をたくさん楽しむことができました。事前の研修で「マレーシアの人は一日六食食べる」と聞いていたのですが、正直のところ半信半疑でした。ですが実際に現地に行ってみたところ、この話が本当だということを実感しました。これはある1日の食事の例です。

朝ごはん

●ナシレマ

マレーシアで定番の朝ごはんです。私は滞在中、毎日朝ごはんにナシレマを食べていました。

●甘い紅茶

朝ごはんのお供は甘い紅茶です。基本的にこちらの人は砂糖の入っていないお茶は飲んでいない印象を受けました。

スナック？

朝ごはんを食べた後、ペナンで有名な果物屋さん連れられて行ってもらい「ドリアンスティッキーライス」を食べました。これはドリアンともち米にココナッツミルクをかけて食べるデザートです。私はこの時初めてドリアンを食べましたが、匂いはあまり強くなく味はカスタードクリームのように濃厚でとても美味しかったです。あとでホストファミリーから聞いた話によると、7-8月はちょうどドリアンの旬の季節だったようです。



お昼ご飯

この日食べたのは、ナシケラブです。マレー語で nashi はご飯、kerabu はサラダを意味し直訳するとサラダライスとなります。写真から見ても分かるようにバタフライピーで色付けされた青いご飯が特徴です。

軽食



こちらは午後4時ごろに屋台で食べたラクサと中華風の揚げパンです。ラクサはマレーシアを代表する料理の一つで、地域によってさまざまな種類があります。大きく分けて、魚の出汁に酸味を加えたさっぱりとしたラクサと、鶏の出汁にココナッツミルクを加えたまろやかなラクサの2種類があります。ペナンのラクサは前者の魚系ラクサで、魚のほぐし身と太い麺が入っており、辛さも控えめで味も濃くなく、マレーシアでは珍しい優しい味わいの料理でした。屋台の料理とは思えないほど本格的で、毎日でも食べたいくなる美味しさでした。もう一つが中華風揚げパンで、こちらはピーナッツソースにつけて食べました。

夜ご飯



この日はホストファミリーの親戚の方が働いているレストランに連れて行ってもらいました。サテー（焼き鳥のようなもの）とエビが入った麺料理を食べました。サテーのソースはピーナッツベースで意外と甘いのが印象的でした。そして忘れてはいけないのは毎回の食事に欠かせない甘いドリンク。この写真はマレーシアの定番ドリンクの「テ・アイス」です。濃く入れた紅茶に練乳をたっぷり入れたリッチな甘さの飲み物です。最初飲んだ時はこんなに甘い飲み物は飲めない、と思いましたが次第にこの甘さが癖になりこの日も一回の食事の中でテ・アイスを2杯飲みました。



本当は食べたもの全て書きたいくらいマレーシアで食べたものは全て美味しかったです。なんとこの1週間の滞在で2.5kgほど太ってしまいました。

【公式行事：ペナン視察観光】

マレーシア滞在2日目は、ペナン島観光に行きました。ペナン島はかつてイギリスの海峡植民地の拠点とされた島で、イギリス統治時代の影響を色濃く残しているのが特徴です。ペナン島の中心地、ジョージタウンは世界遺産にも登録されており人気の観光スポットとしても知られています。

ジョージタウンのメイン観光地でもあるハーモニー通りは、キリスト教の教会・中国寺院・モスク・ヒンズー寺院が並んでおり、通りの名前の通りこの地で異なる宗教の人々が共存してきた歴史を肌で感じる事ができました。日本で生活していると、異なる宗教や民族がここまで密接に関わり合う風景は見られないため、非常に新鮮で印象深い体験となりました。



またジョージタウンでは多くのストリートアートが存在しており、カラフルな建物に描かれた多くの壁画やアイアンアート（針金アート）を見る事ができます。一番人気の壁画は自転車に二人乗りする姉弟の絵です！



【公式行事：中等教育学校訪問（8/6）】

今回の滞在のメインイベントでもあった学校訪問。マレーシアの中等教育学校の学生たちに英語で日本語を教え、授業が終わってからはマレーシアと日本の学校生活の違いについても意見交換をしました。英語を日本語で教えるということは初めての経験だったのでとても不安でしたが、学生の皆さんがとても優しく接してくれたおかげで、私自身楽しんで授業をすることができました。授業後の意見交換では、マレーシアと日本の受験システムの違いや、学校生活の違いについて詳しく話を聞く事ができました。とても印象的だったのは、マレーシアの高校では半数以上の学生が「ホステル」と呼ばれる寮に暮らしているということです。また、宗教に基づいた学校が多いため、カリキュラムには宗教の授業やお祈りの時間が組まれている点も興味深かったです。



訪問した学校では、全体から温かい歓迎を受けました。学校に入る際にはマレーシア伝統の格闘技を生徒たちがパフォーマンスしてくれました。その後は学校の体育館で私たちの歓迎会が開かれ、マレーシアの伝統ダンスや伝統の遊びを学生たちが紹介してくれました。なんと、私たちも伝統衣装を学校から借りて、ステージで踊るというコーナーもありました。ほぼぶっつけ本番でしたが、見様見真似で踊るのはとても楽しかったです。



さらにマレーシアの伝統菓子を作るコーナーも設けられており、「オンデ・オンデ」と呼ばれるお菓子を実際に作る体験をしました。このお菓子はパンダンリーフを使って緑色に着色した餅粉を黒糖で包んでお湯で一回茹でた後に、ココナッツフレークをまぶしたマレーシア定番のお菓子です。出来立ての温かい「オンデ・オンデ」はとても美味しかったです。



【最後に】

今回のマレーシアでの1週間のホームステイ体験は私にとって新しい視点をもたらす貴重な体験となりました。特に、マレー系・中華系・インド系という異なる民族が、それぞれ異なる宗教を信仰しながらお互いに尊重しあって暮らしている姿は私にとってとても印象的でした。このような姿を見て、異なるバックグラウンドを持つ人々との共存の大切さを改めて認識する事ができました。最近、葛飾区には多くの外国の方が暮らすようになり、さまざまな文化や価値観が交わる場面を目にする機会が増えています。このマレーシアでの体験や経験を活かして、多様性が進む社会の中で互いの文化や習慣を尊重し合える世の中の実現に貢献できるよう努力していきたいと思いました。最後に、このような貴重な機会を用意してくださった全ての方々に心から感謝します。

9. 最後に

この度は、ホームステイを通じた国際友好交流において、関わってくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。

私たちは、7日間という時間の中で、マレーシア・ペナンの街の魅力と、そこに住む人々の温かさに触れ、感謝しきれないほどのおもてなしを感じることができました。訪問中の公式行事として、現地の中等教育学校を訪問し、授業を行ったり、お菓子作りや伝統舞踊を体験するなど、様々な経験を積むことができました。また、日本の文化や葛飾の街の説明に対し、とても興味をもって聞いてくれたことを、とても嬉しく思いました。互いに文化交流を行うことができ、大いに学びのある時間となりました。

ホストファミリーとの時間では、ペナン州を朝から夜遅くまで案内していただき、限られた時間の中で、自然と多文化が共存するペナンの魅力を存分に感じる事ができました。私は、マレー系の家庭でホームステイを行い、家族の一員のように温かく接していただき、最終日のお別れの際には感謝の気持ちがあふれ涙が止まりませんでした。

最後に、マレーシア・ペナンで素晴らしい出会いと貴重な体験を支えてくださった葛飾区、ペナン州の皆様、そしてホストファミリーに深く感謝申し上げます。今後とも、マレーシア・ペナンの皆様との深い交流を楽しみにしております。